

安全安心の信州を目指して

第4編 くらし・ものづくり・歴史

明治18年から続く長野県小川村の“砂防惣代”と施設群

戸隠連山

ワリ地

至 小川村役場

己り地沢 榎苗沢
滝の下沢

昭和10年 石張り水路での記念撮影

標高700m~850m

至 長野市

- ・ 地すべりが頻発する山麓で棚田を度々再配分してきた己り地（わりち）＝地割慣行：災害常襲地の連帯保障と危険分散
- ・ 砂防惣代は、己り地の安定を図るため各地区の代表者で組織され、明治時代に要望活動や工事参加を実施、現代は維持管理活動を積極的に展開

富吉沢

中学生を交えた維持管理作業

お志茂の水除け

所在地：中川村田島

建造年：明治32年の地図に明記

前沢川に向けて鋭角の舟形に配置



名古山の水除け

所在地：飯田市南和田名古山

建造年：江戸時代

昭和の初めの土石流でも家を守った実績がある

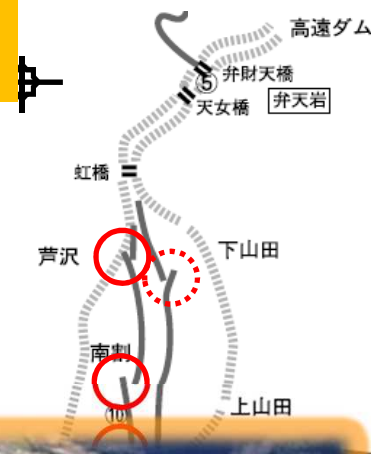


土石流常襲地帯の構造物にみる工夫(南木曾町)

南木曾町蛇抜沢の木製橋



急流河川の洪水制御の工夫(三峰川の霞堤)



牛伏川砂防堰堤

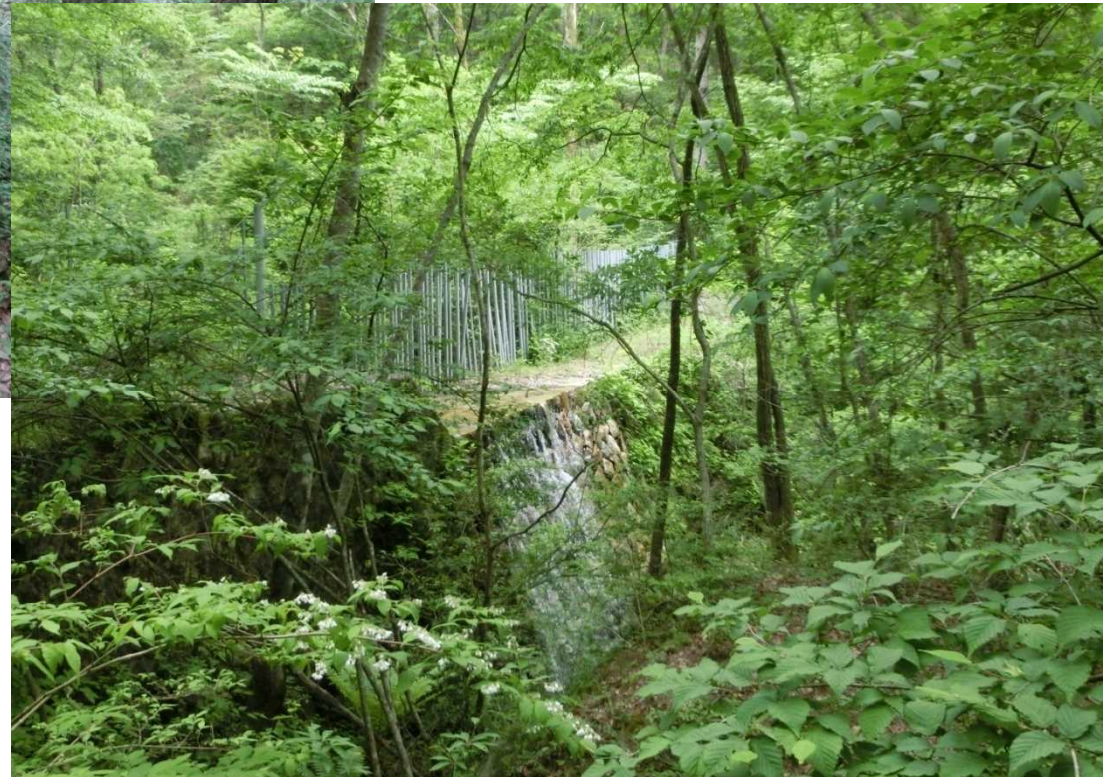
所在地：長野県松本市

建造年：明治18年頃（内務省）

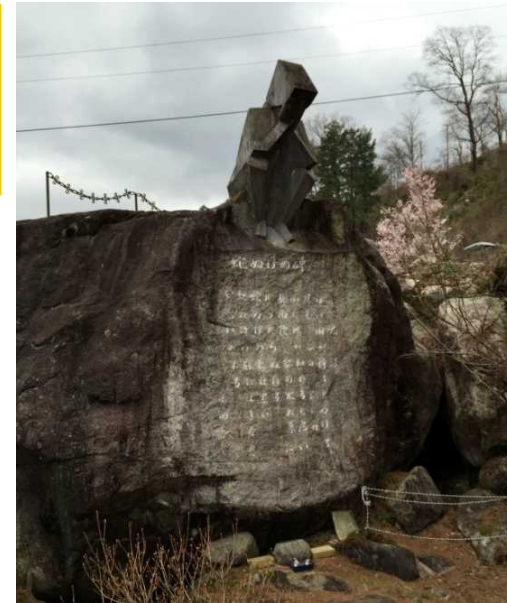
平成24年重要文化財指定



飯田市上久堅の農村匡救砂防事業(昭和10~11年頃)と その後の砂防学校



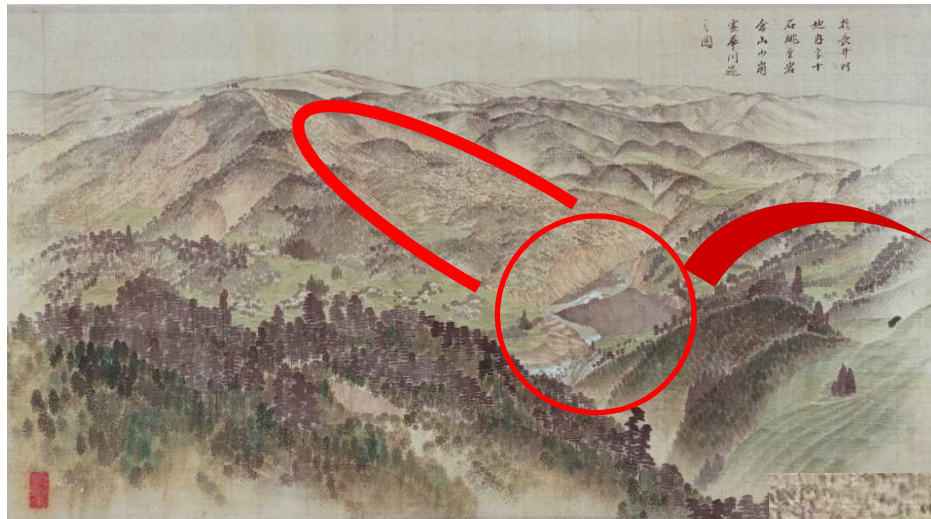
尾先、谷口、宮の前…蛇抜けの碑 (南木曾町)



昭和28年7月20日に発生した土石流災害の犠牲者を偲んで建立

白い雨が降るとぬける
尾先 谷口 宮の前
雨に風が加わると危い
長雨後 谷の水が急に
止まったらぬける
蛇ぬけの水は黒い
蛇ぬけの前にはきな臭
い匂いがする

松代藩の絵師青木雪卿が伝えた天然ダムの決壊跡



現在の同左の崩壊跡地

NO 49 於長井村地内字十石眺望岩倉山
山崩塞犀川跡之図 中条村上長井

善光寺地震

1847年5月8日(弘化4年)に発生したM7.4の直下型地震。松代領内で大小4万2000箇所、松本領で1900箇所の山崩れが発生。岩倉山は3方向に地すべり性崩壊を起こして天然ダムを形成、19日後に決壊、高さ20mもの段波となって善光寺平に大きな被害を及ぼした。

絵図は、2年後に藩主真田幸貫が巡視した際に青木雪卿が岩倉山涌池方面を描いたもの



犀川

小泉小太郎伝説(長野県上田市塩田平) 鞍が淵と蛇骨石

くら 鞍が淵の伝説 ぶん せんせつ

昔、独鈷山の頂に寺がありました。若い僧がお経を始めると、毎夜どこからともなく美しい娘が、お経を聞きに通ってきました。不思議に思った僧はある夜、娘の着物の裾に糸のついた針を刺しておきました。

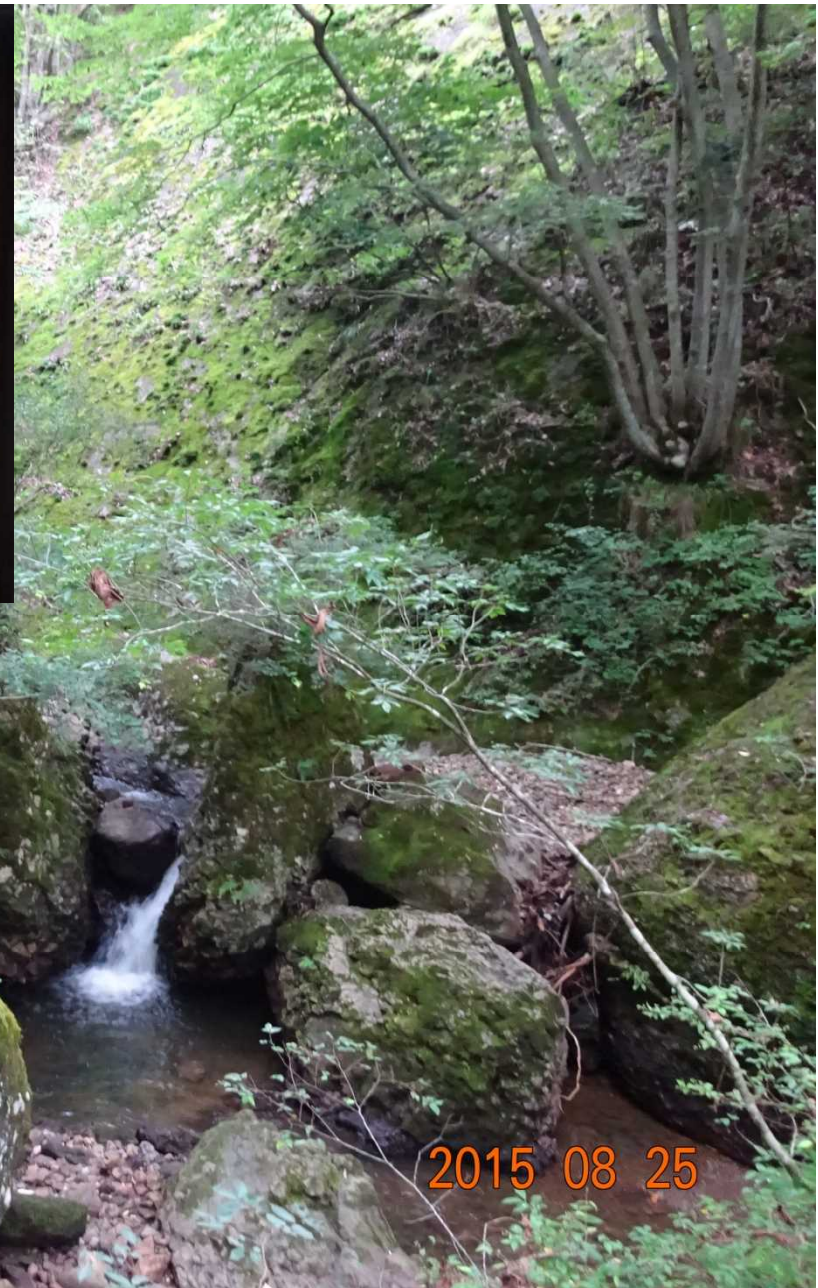
夜が明けてみると、糸は糸の節穴を抜け、この鞍が淵まで続いています。見ると大蛇が赤尻を産もうと苦しんでいました。

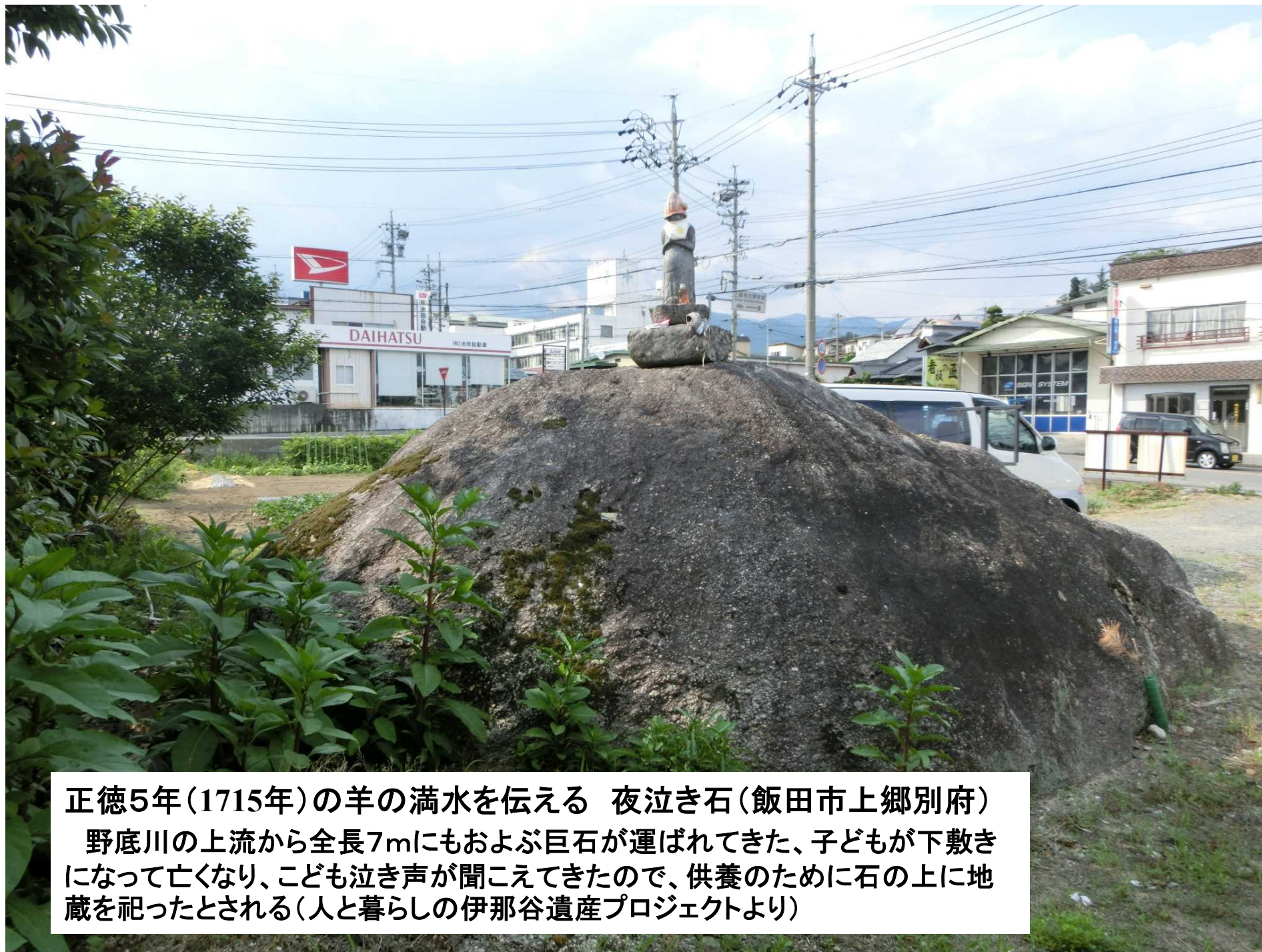
僧は驚いて寺に戻りました。娘は鞍が淵の主、大蛇の化身でした。産まれた児を鞍岩の上に置き、大雨を降らせ大蛇は死んでしまいました。この川は産川と名づけられ、大蛇の遺骨は蛇骨石となって散らばり、現在も探すことができます。

流された児は、小泉村の老婆に救われ、伝説の主人公、小泉小太郎となりました。

平成十八年十一月

西塩田地区振興会
塩田平文化財保護協会





正徳5年(1715年)の羊の満水を伝える 夜泣き石(飯田市上郷別府)

野底川の上流から全長7mにもおよぶ巨石が運ばれてきた、子どもが下敷きになって亡くなり、こども泣き声が聞こえてきたので、供養のために石の上に地蔵を祀ったとされる(人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクトより)